

イデックスオイルレポート ~For a month~

2021年5月6日作成 (株)新出光

【月次概況】

●第1週、4/1のWTI原油は、先週比0.48ドル高の61.45ドルとなりました。OPECプラスは1日、閣僚級会合で、欧州を中心とした新型コロナウイルスの感染再拡大を踏まえ、5月から7月まで日量35万~40万バレルずつ減産を緩和していくことで一致しました。合意が報じられると、原油相場はやや下押し場面もありましたが、ワクチン接種拡大などによる世界経済の回復期待を背景に市場は当面の方針を前向きに受け止めたようです。バイデン米大統領は前日、インフラ整備や環境対策を中心に8年間で2兆ドル超を投資する成長戦略を正式発表しました。ワクチン普及や大型の景気対策により景気回復が加速するとの楽観的な見方が広がっていることも相場を支えました。

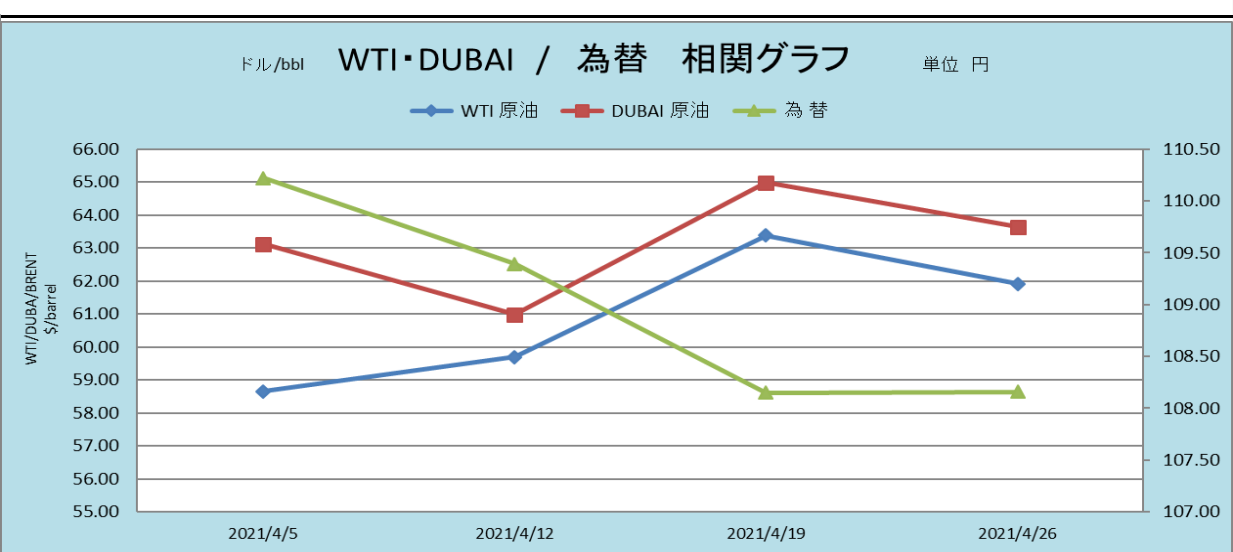
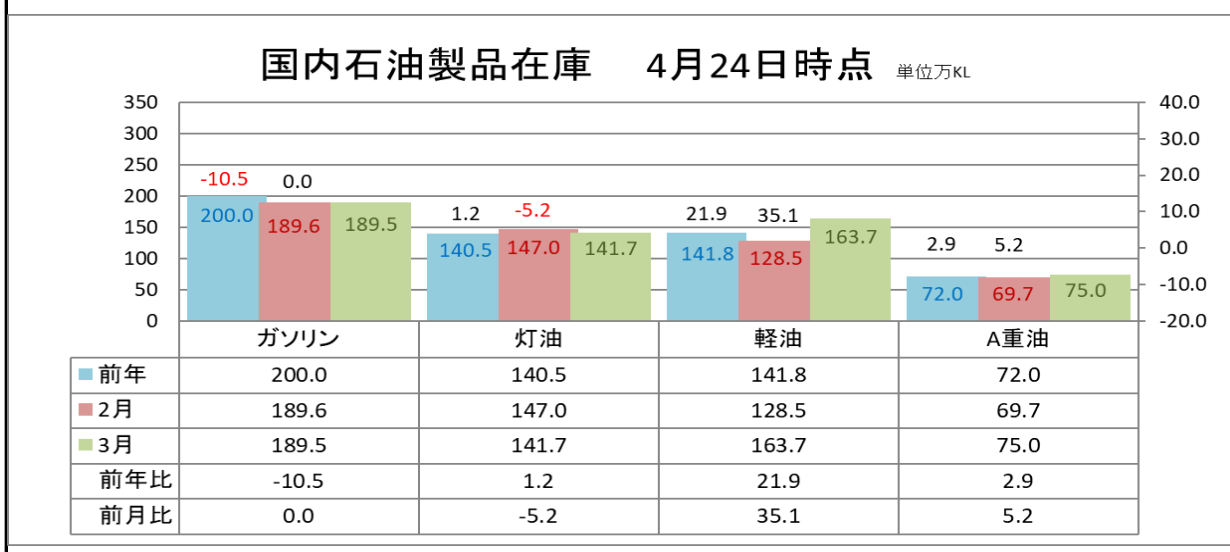
●第2週、週末4/9のWTI原油は、先週比2.13ドル安の59.32ドルとなりました。国際通貨基金(IMF)が公表した最新の世界経済見通しでは今年の世界全体の成長率が6.0%に上方修正されました。一方でフランスなど欧州の一部や南米で新型コロナウイルスの感染者が再拡大していることやOPECプラスが5月から7月にかけて産油量を段階的に拡大する方針を決めたことも引き続き相場の重しとなっています。英仏独中ロ、イランと欧州連合(EU)は9日、イラン核合意の維持を目指し次官級会議を開きました。米国はEUの仲介で間接的に参加しました。イランは米国による経済制裁解除を要求しており、市場は制裁解除でイラン産原油が国際市場に流入する可能性を警戒しており来週に再開される協議の行方に注目しています。

●第3週、週末4/16のWTI原油は、先週比3.81ドル高の63.13ドルとなりました。中国税関総署が13日発表した貿易統計によると、同国の輸入は前年同月比38%増で4年1ヵ月ぶりの大幅な伸びとなりました。また米エネルギー情報局(EIA)が14日に発表した9日までの1週間の国内在庫は前週比590万バレル減となりました。市場予想の290万バレル減を上回る取り崩しで東海岸の原油在庫は過去最低となりました。国際エネルギー機関(IEA)は、新型コロナウイルスのワクチン普及と石油輸出国機構(OPEC)主導の協調減産により、今年後半には世界の石油市場が需給均衡に向かうとの見通しを示しました。16日には、今年1~3月期の中国国内総生産(GDP)が前年同期比18.3%増と四半期ごとの数値公表が始まった1992年以降で最高の伸びを記録しました。世界1、2位の経済大国の景気回復が進み、エネルギー商品需要が増大するとの期待が高まりました。

●第4週、週末4/23のWTI原油は、先週比0.99ドル安の62.14ドルとなりました。インド政府によれば22日午前8時までの24時間の新型コロナウイルス新規感染者は31万4800人超となりました。1日当たりの新規感染者数として世界最多で、首都ニューデリーなど各地で新型コロナ感染拡大防止のためにとられた行動規制措置で経済活動が停滞すればエネルギー需要が減速するとの懸念が台頭し原油が売られました。一方、リビア国営石油会社(NOC)が22日、予算上の問題から石油生産がここ数日間、日量約100万バレルに落ち込んでおり、今後一段と減少する可能性があるとして説明したため原油が買い戻されました。

●第5週、週末4/30のWTI原油は、先週比1.44ドル高の63.58ドルとなりました。石油輸出国機構(OPEC)加盟・非加盟の主要生産国で構成するOPECプラスは、今週開いた会合で、今年の世界石油需要の伸び見通しを据え置き、段階的に産油量を増やしていく従来の方針維持を確認しました。インドなどで新型コロナウイルスの新規感染者が急増していますが、米国や中国、英国ではワクチンの迅速な普及によって経済正常化が進んでおり、感染拡大地域の需要減を相殺するとの楽観的な見方が広がっています。堅調な米経済指標やドル安、エネルギー需要の回復期待を背景に原油は買われました。

4月平均	WTI原油	61.70ドル	前月比	▲0.66ドル	為替 1ドル	110.14円	前月差	0.51円
------	-------	---------	-----	---------	--------	---------	-----	-------



日付	変動幅	変動幅	ガソリン	灯油	軽油	A重油	LSA
4/1~4/7	-1.0	-1.5	114.3	63.0	63.0	61.0	61.5
4/8~4/14	+1.0	+1.0	115.3	64.0	64.0	62.0	62.5
4/15~4/21	-1.5	-1.5	113.8	62.5	62.5	60.5	61.0
4/22~4/28	+1.5	+1.5	115.3	64.0	64.0	62.0	62.5
4/29~5/5	±0	±0	115.3	64.0	64.0	62.0	62.5

メニュー価格推移 平水湾内T/S持ち届け (サイト60日)	0.5HPP		ENEOS LS船用燃料油基準価格	
	2021年1-3月C重油決定価格	49,930	51,930	【49,930(メニュー)+2,000(プレミアム)】
2021年4-6月C重油仮価格	57,330	59,330	【57,330(メニュー)+2,000(プレミアム)】	
2021年4-6月C重油決定価格			【(メニュー)+2,000(プレミアム)】	
	決定価格1-3月比			

内航燃料油価格推移	適合油価格		A重油
	2021年1-3月(決定価格)	55,400	59,700
2021年4-6月(仮価格)	63,400		
2021年4-6月(決定価格)			
	決定価格1-3月比		

CIF価格推移	年/月	9桁速報	原油CIF価格	通関CIF	為替レート	原油CIF価格
			円/kl	ドル/bbl	円/ドル	前月比
	21/3	9桁速報	41,503	61.62	107.08	4,859
	21/4	最終予測	45,709	66.34	109.54	4,206
	21/5	展望	44,775	65.31	109.00	-934
	21/6	展望	45,720	66.99	108.50	945

【4月市況】

●第1週の元売価格変動幅は、ENEOS・コスモ「-1.5円」、出光シェル「-1.0円」の値下げでした。改定は異なりましたが、前週分と合わせて各元売りは-3.0円値下げしました。市況はすでに3月の消化売りによって下がっていたこともあり、月替わりでかつ年度初めになりますので、そこからさらに値下げして販売を進めるディーラーは限られたようです。

●第2週の元売価格変動幅は、「+1.0円」の値上げでした。今週は先高傾向でしたので、月間リンクの玉の販売も消極的で仕切り上がった後の販売を目論んでいるようでした。改定後の市況はほとんど値上げが浸透せず、月間リンク玉の台頭で横ばいか小幅下落での価格推移となっています。ただ、4月からの月間リンク玉のフォーミュラ変更の影響がこれからでてくるのか注目したいところです。

●第3週の元売価格変動幅は、「-1.5円」の値下げでした。先安を見込んで、月間リンクの玉を販売するディーラーが下げ足を早めていましたので、改定後の市況の下げは小幅に留まりました。ただ、その後原油相場が急騰したことにより、次回の元売り改定の値上げが見えてきたために、油槽所や月間リンク玉を扱うディーラーを中心に価格の引き上げが続いています。

●第4週の元売価格変動幅は、「+1.5円」の値上げでした。大幅な値上げ改定となりましたが、ガソリン・灯油については月間リンク玉の販売により、市況の上昇幅が抑えられました。軽油や重油でも枠の消化具合により、各地対応は様々となっています。

●第5週の元売価格変動幅は、「±0円」のスライドでした。原油コストは若干のマイナスで、調整金の+0.3が加味されスライドとなりました。今回の改定でENEOS・出光シェルは4/29~5/12までの改定が行われました。月替わりのリセット値上げは+0.5~+1.0円程度となりそう、月間リンク玉の販売が足元の原油相場をみて提示を見合わせたり、大幅に上げたりしていることが要因のようです。

【5月価格変動要因】

●需要面:米国のガソリン需要は、コロナ前のレベルまで戻ってきています。今後、米国のドライブシーズンである夏場に向かい益々需要が高まりますが、一方でインド・ブラジル・日本で新型コロナウイルスの流行が広がっていますので需要面では、弱い見込みです。

●供給面:米国のシェールオイル生産のためのリグ数は徐々に増えてきましたが、直近では、伸び悩んでおりシェール増産に踏み込めない状況です。リビア国営石油会社(NOC)は、予算上の問題から生産を縮小しており今後一段と減少する可能性があるとして説明しました。しかし大勢には大きな影響はなく急激に供給が減ることはない見込みです。

●リスク資産(金融市場):米国の金利上昇とドル高も落ち着き調整局面に入っています。そのため株式に資金が入りやすくなっておりリスク資産的には強い見込みです。

●地政学:サウジ原油施設に対するイエメン派の攻撃が続いています。またイランが濃縮率60%に高めた高濃縮ウラン製造に着手することが報じられており、核施設爆撃を受けてイランが態度を硬化させています。さらにイスラエルとイランの船舶に対する攻撃が相次いでおり両国間の緊張が高まっています。

〈価格見通し〉

	(単位:US/bbl)	
	Brent	WTI
High	70	66
Average	65	61
Low	62	58

日付	国	5月経済指標カレンダー	日付	国	5月経済指標カレンダー
3	米	4月ISM製造業景況指数	14	米	4月小売売上高
5	米	4月ADP雇用統計	18	欧	1-3月期 四半期域内総生産(GDP、改定値)
5	米	4月ISM非製造業景況指数	19	欧	4月消費者物価指数(HICP、改定値)
7	米	4月非農業部門雇用者数変化	19	米	米連邦公開市場委員会(FOMC)議事要旨
7	米	4月失業率	25	米	4月新築住宅販売件数
7	米	4月平均時給	27	米	1-3月期 四半期実質国内総生産(GDP、速報値)
12	米	4月消費者物価指数(CPI)	28	米	4月個人消費支出(PCIデフレーター)

当レポートは、情報提供のみを目的としておりますのでお取引の判断については、御自身で行って頂くようお願い致します。